



TITLE:

國際測地學地球物理學同盟の決議

AUTHOR(S):

CITATION:

國際測地學地球物理學同盟の決議. 天界 1928, 8(86): 228-229

ISSUE DATE:

1928-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161278>

RIGHT:

國際測地學地球物理學同盟の決議

天文學界に於いて全世界の研究的連絡は「國際天文同盟」(International Astronomical Union)であつて、三年目に一回づゝ總會を開き、(現に今1928年七月にはオランダ國ライデン市で第三回總會が開かれる筈)其の他各種の事業をしてゐるが此の同盟と學術上の關係最も深いのは「國際測地學地球物理學同盟」(International Geodetic and Geophysical Union)であつて、實際此の二種の國際同盟には各國共同じ學者が關係してゐるのが多い。此の同盟は今まで

第一回總會を 1922年 イタリアのローマ市で開き、

第二回 同 1924年 スペインのマドリド市で開き(「天界」第號第頁)

第三回 同 1927年 チェコのプラハ市で開いた。

第三回の總會に於いて決議された事項は次の通りである：—

- I ブリュセル市で1926年六月29日開かれた國際研究會議により、加盟各國は今後金貨フランで其の經費割當額を據出すべきであるが、始め定められた金額は其れ々々比例によつて記載金額を三分の一乃至五分の一に減ずること、何となれば始め1919年にかの金額が定められた頃は1800金フランが2600紙フランに相當してゐたから。故に、1928年から當分此の金額は900金フランに改め、之れを研究會議事務局及び各國委員に通知すること。
- II アメリカ代員たちの希望により、今後、本同盟の總會は國際天文同盟の總會と同年はゞ同時期に、又、場所も近所で開くこと。ついては事務局は此の件に關し國際天文同盟の事務局と交渉すべし。
- III M.Charles Lallemand 氏の同盟總長重任。
- III 測地學部では——
潜航艇隊を有する各國では、Vening-Meinez 氏の方法により成るべく早く海上の重力測定を行ふこと。
- V 地震部學では——
(1) 地震觀測所を下の所々に設くるやう希望す。
a) スペイン北部及びバレアル諸島(スペインの觀測網完成のため)
b) ニウカレドニア及びタヒチ(フランス殖民地の觀測網完成のため)

- (2) アメリカ委員の要求により海底に其の起伏、重力偏差、地震中心等との關係を研究するやう望む。

VI 氣象學部では——

- (1) コロンボ、テヴ、ホンコン、セイロン、南阿ブレトリア、漳州メルボーン、南太平洋アピア等に於て行はれた高層氣象觀測報告を大に歡迎し、尙ほ之れ等を國際的協力により續行するこゝ。
- (2) 此の部の協議録は研究學者の希望あり次第、各國委員より交附する事。

VII 海洋學部では——

- (1) 地震學部及び火山學部と協同して bores の現象研究に關する記録を集めるこゝにつこむる特別委員會を作るこゝ。
- (2) 氣象學部と協同して兩極地方の氷が氣候(特に南米半球の)に影響する件の研究委員を作る事。

VIII 火山學部では——

- (1) 地球の溫度傾斜の研究が純學術上にも其の應用上にも重要なにより、イタリヤ政府は國內の火山殊にエスヴ山の研究を研究會議に委託するやうすゝむ。
- (2) エゲア海中の死火山及び溶岩研究の重要なに鑑み、アテンス大學の岩石學研究所の事業を系統的に續行するやう望む。
- (3) アテンス學士院の Ktenas 教授の要求により サントリン群島中の Kamenas 諸島の新火山に Fouqué といふ名を認むるこゝ。
- (4) 溶解點に近き固體及び液體 Magma 中の縦波及び横波傳達速度測定の重要なに鑑み、此の如き地方を有する各國にて此の種の測定を試むるやうすゝめる事。